

# 8日 水曜

## サムエル I

20:12 ヨナタンはダビデに言った。「イスラエルの神、【主】にかけて誓います。明日かあさっての今ごろまでに、父がダビデに対して寛大であるかを探ってみます。寛大でなければ、必ず人を遣わして、あなたの耳に入れます。

20:13 もし父が、あなたに害を加えようと思っているのに、それをあなたの耳に入れず、あなたを無事に逃がさなかったなら、【主】がこのヨナタンを幾重にも罰せられますように。【主】が父とともにおられたように、あなたとともにおられますように。

20:14 もし私がこれ以上生きるべきではないのなら、あなたは、【主】の恵みを私に施して、私が死ぬことのないようにする必要はありません。

20:15 しかし、あなたの恵みを私の家からとこしえに断たないでください。【主】がダビデの敵を地の面から一人残らず断たれるときにも。」

20:16 ヨナタンはダビデの家と契約を結んだ。「【主】がダビデの敵に血の責めを問われますように。」

20:17 ヨナタンは、ダビデに対する愛のゆえに、もう一度ダビデに誓わせた。ヨナタンは、自分を愛するほどにダビデを愛していたからである。

20:18 ヨナタンはダビデに言った。「明日は新月祭です。あなたの席が空くので、あなたがいないことが分かるでしょう。

20:19 三日目に、日が暮れてから、あの事件の日に隠れた場所に行って、エゼルの石のそばにいてください。



20:20 私は的を射るよう、三本の矢をそのあたりに放ちます。

20:21 私が子どもを遣わして、『行って、矢を見つけて来い』と言い、もし子どもに『それ、矢はおまえのこちら側にある。それを取つて来い』と言つたら、出て来てください。【主】は生きておられます。あなたは安全で、何事もありませんから。

20:22 しかし、私が少年に『それ、矢はおまえの向こう側だ』と言つたら、行ってください。【主】があなたを去らせるのです。

20:23 私とあなたが交わしたことばについては、【主】が私とあなたの間の永遠の証人です。」

人間の願いによって人間的な基準で立てられた王であるサウルと、神が選び立てられたダビデとの違いがサムエル記の重要なテーマです。よく知られているようにダビデはキリストの型であって、そのようなキリストが待望され、またそのようなキリストであることにより、イエス様がキリスト（預言された救い主）であることが検証されるのです。

ダビデとサウルとの違いは、ここではヨナタンとの友情において明らかにされています。二人の友情は王位を争っているなら有り得ないことですから、ダビデは王位への野心がないこと、むしろヨナタンが王子であることを認めて尊重していることがわかります。

今は二人は王子と平民という上下関係にあるのですが、ヨナタンは「あなたの恵みをとこしえに私の家から断たないでください。」とダビデの主にある力を認めています。二人が神様だけを見上げていたことが分ります。

ダビデは身に起こる危険に切迫感を持ちながらも、王を憎むこともその子に怒るでもなく、諦めないで最善な策を探ります。翻弄されながらも、

主に任せている信仰です。

人はそれぞれの歩み方がありますが、ダビデのように、不安の中にも主を信じて、あくまで信仰によって前を見ましょう。また信仰の友と主の計画を願う心を分かち合いましょう。

またヨナタンのように主のために生きる人を、主の尊い計画のゆえに励まして支えましょう。自分を守ることを時には度外視する必要もあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？